



## 『文部科学省『全国学生調査(第4回施行実施)』の集計結果について』

### 【1】はじめに

本号(Vol.9)では、文部科学省が全国の大学を対象に実施している「全国学生調査(第4回試行実施)」の結果を取り上げます。本学もこの「全国学生調査(第4回試行実施)」に参加しました。この調査は、学生の学びの姿や成長の実感を明らかにし、大学教育の改善や学生支援の充実につなげることを目的としています。また、学生自身が自分の学びを振り返るきっかけとなるとともに、大学の教育活動を社会にわかりやすく示す重要な取り組みでもあります。

令和6年度に実施された第4回試行では、全国の多くの大学が参加し、本学もこれまでに続き参加しました。本学の回答率は20.0%で、前回(第3回試行：5.4%)、前々回(第2回試行：4.1%)に比べて大幅に向上しました。全国平均(国立大学15.2%、公立大学15.6%、私立大学12.3%)と比較しても高い水準となっており、学生の関心の高まりと学びへの主体的な姿勢がうかがえます。

本学では、独自に実施している「学びと成長調査」とあわせて、学生の学修成果や成長の過程を多面的に捉える取り組みを進めています。今回の全国学生調査の結果は、学生一人ひとりの学びを支え、教育の質をさらに高めるための貴重なデータとなります。本レポートでは、全国的な結果の傾向を紹介するとともに、本学の学生の学びの特徴や今後の改善の方向性について考察します。

### 【2】結果考察

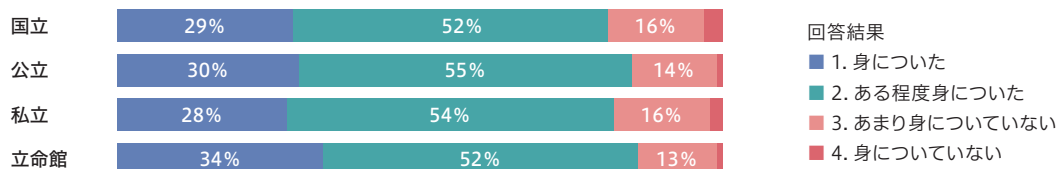
調査では、本学の集計結果と設置形態別の集計結果が提供されています。これらの比較だけでは、本学学生の学びについて断定的なことを述べることは困難であるものの、おおまかな傾向として読み取れる点に注目します。

まず、「大学教育を通じて身についた知識や能力」に注目します。第1に、本学の学生は、「文献・資料を収集・分析する力」や「論理的に文章を書く力」の点で実感値が高い傾向があります。各学部で卒論の必修化

やそれに伴う初年次教育の充実といったカリキュラムの強みが反映された結果、優れたアカデミックスキルの指導が行われていることが伺えます。

○大学を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

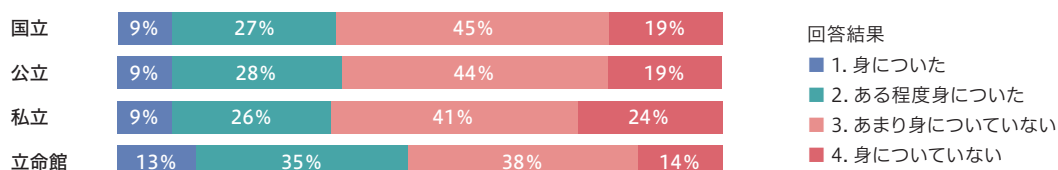
#### 文献・資料を収集・分析する力



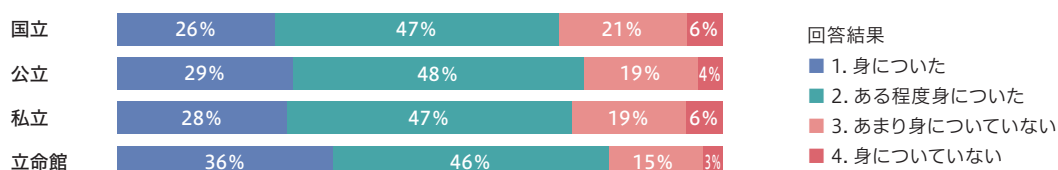
第2に、「外国語を使う力」「異文化理解」の点でも、実感値が高い傾向があります。本学では、ダブルディグリープログラム、英語での卒論の推奨、専門教育での外国語使用の機会など、カリキュラムレベルで外国語使用や異文化理解の機会が提供されており、こうした努力が反映された結果と伺えます。この結果は、「在学中の有用な経験」に関する質問でも「海外留学」が高いことにも結びついています。

○大学を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

#### 外国語を使う力



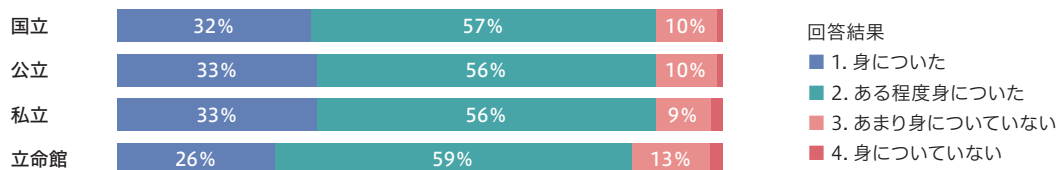
#### 異なる文化に関する知識・理解



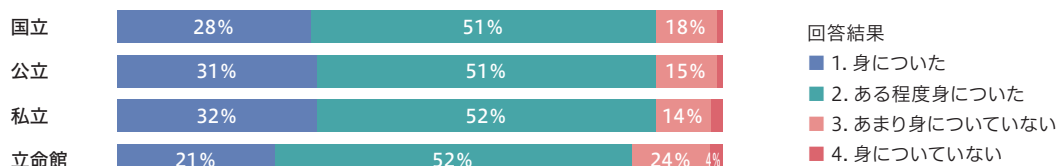
一方、「大学教育を通じて身についた知識や能力」では、実感値の低いものもありました。特に、「専門分野の知識・理解」「将来の仕事につながる知識・スキル・態度・価値観」の点では実感値が低い傾向にあります。どの大学でも専門教育はカリキュラムの中で大きなウェイトを占めていますが、この項目で比較的低い実感値となった点は、今後検討を要する点です。ただし、この解釈には留意も必要です。

○大学を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

専門分野に関する知識・理解



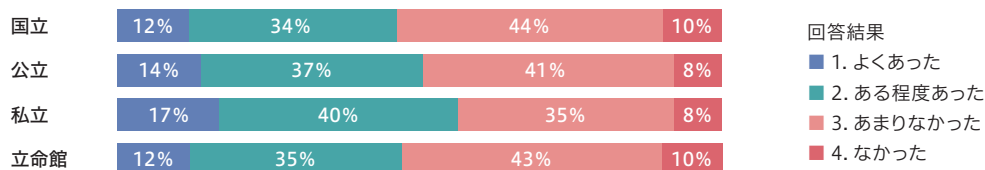
将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



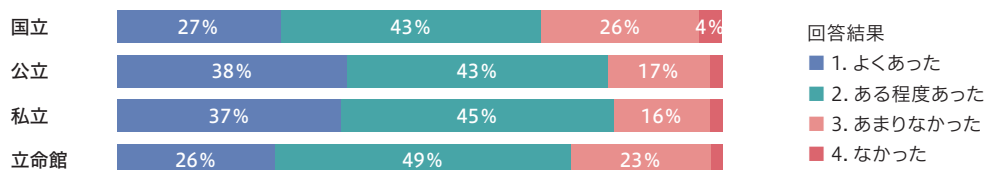
たとえば、本学は大規模大学であるため、クラスサイズが大きく、能力形成につながる教授法が十分に活用できていない可能性があります。実際に、「授業での経験」に関する質問で、「提出物へのコメント返却」「グループワークやディスカッションの機会」「理解しやすいように工夫された教え方」で実感値が低いことにも表れています。科目レベルでの対応としては、専門教育の科目を中心に、1クラスあたりの人数減らし複数クラス開講とする、TAやESといった授業補助者を手厚く配置すると共に、教員もTAやESを効果的に活用する授業方法に転換するといった点を検討してもよいでしょう。カリキュラムレベルでの対応としては、学びの断片化を避けるために、既存の2～3の科目を1つのモジュールにまとめ、複数教員間で学習内容の関連性を高めた上で、学生にもセットで履修させる「モジュール化」などの方法があります。各学部で大規模大学における効果的な専門教育のあり方について、引き続き検討されることを期待します。

○大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

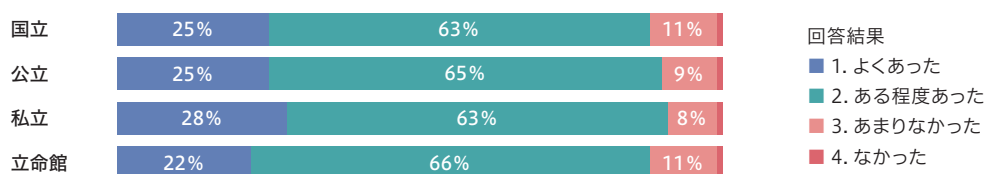
課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される



グループワークやディスカッションの機会がある



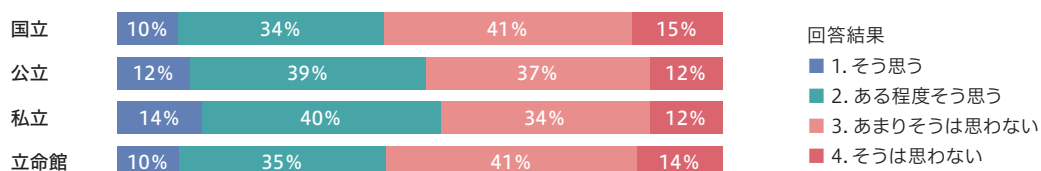
### 理解がしやすいように教え方が工夫されている



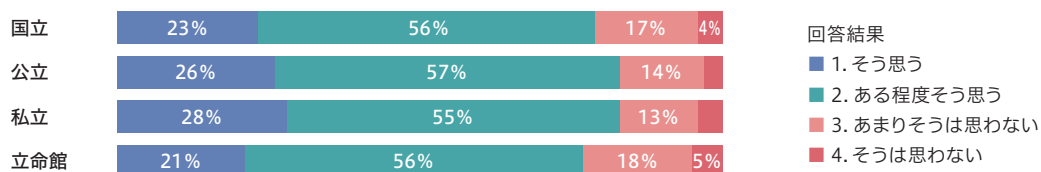
上の点と関連して気になる結果として、本学の学生は「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている」「教職員が学生と向き合って教育に取り組んでいる」の点でも、相対的に実感値が低い点があります。アンケート結果をプログラムやカリキュラム単位で分析し、授業実施方針に反映すると共に、それらを学生にもオープンにしていくことを今後検討してもよいでしょう。また、カリキュラムや授業の改善プロセスに学生を参画させていくことも検討の価値があります。

### ○大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

#### 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている



#### 教職員が学生と向き合って教育に取り組んでいる



### 【3】今後の取り組みについて

本学では2026年度から、これまで独自に実施してきた「学びと成長調査」と、文部科学省による「全国学生調査」を合同で実施します。これにより全国共通の指標と本学独自の設問を一体的に活用し、学生の回答負担を減らしながら、より精度の高い教育改善データを収集できるようになります。

合同実施では、両調査に共通する設問を整理し、全国的に比較可能な質問項目は文部科学省のフォーマットを用います。一方で、本学が重視する「学びの姿勢」や「教育目標の達成度」に関わる設問は引き続き設定し、大学独自の教育の強みを継続的に把握できるようにします。これにより、全国の大学との比較を通じて本学の教育の特色や課題をより明確にし、今後の教学改善につなげていきます。

また、調査結果の活用をさらに進めるため、BIツール「Tableau」によるデータの可視化を行い、視認性が高い形式で共有します。これにより、調査結果が実際の教育改善や学生支援に反映される仕組みを強化します。さらに、授業内での案内や周知活動を通じて、より多くの学生が積極的に調査に参加できるよう働きを進めます。

最後に学生のみなさんへのお願いです。学びに対する意識や経験、成長を理解し、さらなる成長と学びの支援を目指すために、2026年度以降も上記のアンケートを実施します。また大学全体の調査結果を公開し、皆さんが大学全体の学びと成長の状況を確認できるようにします。その結果を通じて、ご自身の学びを振り返り、次の成長のきっかけとして活用していただければ幸いです。

さらに、学生の皆さんが調査に回答くださることで、大学は皆さんの学びに対する意識や経験、成長をより深く理解することができ、その結果が教学の改善・改革に生かされ、より良い教育環境の提供につながります。今後もこの調査を継続的に実施していきますので、ぜひ一人ひとりの声を大学の未来づくりに生かすために、ご協力をお願い申し上げます。

#### 〈全国学生調査回答結果の公開情報はコチラ〉

##### ○立命館大学

令和6年度「全国学生調査(第4回試行実施)」集計結果」

##### ○文部科学省

令和6年度「全国学生調査(第4回試行実施)」の結果について(報道発表)

令和6年度「全国学生調査(第4回試行実施)」結果【資料編】

令和6年度「全国学生調査(第4回試行実施)」ポジティブリスト

#### 〈参考〉

「全国学生調査(第4回試行実施)」回答状況

実施時期：2024年12月2日～20日

実施方法：文部科学省が提供するインターネット(WEB)調査

調査対象：2年生および最終年生

調査対象者数：16,941人 回答者数：3,386人(回答率：20.0%(全国平均：13.1%))

以 上